

SERI NEWS RELEASE

平成 26 年 2 月 28 日

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13
アゴラ静岡 5 階
TEL054-250-8750
FAX054-250-8770

第 41 回

「静岡県版 景気ウォッチャー」調査(平成 26 年 1 月)

～現状判断は上昇、先行き判断は大幅に低下～

- 平成 26 年 1 月実施の「静岡県版 景気ウォッチャー」調査では、県内景気の「現状判断指数（方向性）」は 54.7 と、前回 25 年 10 月調査（50.5）から +4.2 ポイント上昇し、景気横ばいを示す「50」を 5 期続けて上回る「改善」判断となった。
- 一方、2～3 カ月先の「先行き判断指数（方向性）」は 44.4 で、前回 10 月調査（59.2）比で Δ 14.8 ポイントと大幅に低下し、5 期ぶりに「悪化」判断となった。4 月の消費増税後の消費マインドの低下を懸念する声は強く、自民政権が発足し、アベノミクスを掲げて以来、初めて厳しい見通しとなった。

担当：山本愛里

第41回 静岡県版「景気ウォッチャー調査（平成26年1月）」

消費税増税前の駆け込みで改善続くも、先行き反動減を懸念

平成26年1月調査では、**現状判断指数は54.7**と、消費税増税前の駆け込み需要を背景に**前回調査（50.5）から+4.2ポイント上昇**、横ばいを示す「50」を5期連続で上回り、改善基調を維持した（**図表1、2**）。一方、2～3カ月先の景況感を示す**先行き判断指数は44.4**と、消費税増税後の反動減が懸念されて**前回調査（59.2）から△14.8ポイントと大幅に低下**し、5期ぶりに悪化に転じた（**図表1、4**）。

現状判断指数が前回より上昇した主な要因としては、駆け込み需要で家計消費関連が改善したことに加え、雇用関連が大幅に伸びたことが挙げられる。一方、先行き判断指数が低下した要因としては、4月以降の反動減への懸念が挙げられ、家計消費関連、事業所向けビジネス関連、雇用関連すべてで不安視する声が聞かれた。

調査結果の要旨

現状判断（D.I.=54.7） 家計消費関連は改善、全体は回復基調が続く

- ・家計消費関連（D.I.=51.6） 消費税増税前の駆け込み需要や富士山効果で改善
- ・事業所向けビジネス関連（D.I.=57.4） 受注量の増加で、改善判断に
- ・雇用関連（D.I.=75.0） 駆け込み需要対応で求人数が増加、大幅に改善

現状判断理由 改善の主な要因は、来客数や販売量、求人の動き

- ・家計消費関連・・・「来客数」や「販売量」が増加、「客単価」も上昇の動き
- ・事業所向けビジネス関連・・・「受注量や販売量の動き」が活発化
- ・雇用関連・・・「求人の動き」や「求職者の動き」の改善で雇用環境は良好

先行き判断（D.I.=44.4） 増税後の反動減やマインド低下の懸念から悪化判断

- ・家計消費関連（D.I.=43.8） 飲食関連を中心に消費マインドの低下を懸念
- ・事業所向けビジネス関連（D.I.=47.1） 好材料見当たらず、不透明感が漂う
- ・雇用関連（D.I.=44.4） 増税後の減産に伴う求人数の減少で、先行きは悪化